事例No.	3210
公表年度	R6
団体の属性	その他
団体名	一般社団法人E’more秋名

事例区分	地域活性化

タグ	・移住定住 ・関係人口 ・地域運営組織

事例種類	地域振興

事例内容・タイトル

50年後も子どもたちが住みたいと思えるシマ（集落）であり続けてほしい

出典

令和６年度優良事例表彰

総務大臣賞

鹿児島県龍郷町（たつごうちょう）

一般社団法人 E’more秋名（いもーれあきな）

50年後も子どもたちが住みたいと思える シマ（集落）であり続けてほしい



荒波のやどりで八月踊りをする地域住民と法人関係者たち

審査講評

評価のポイント

- 龍郷町・荒波地区のにぎわいと人のつながりを生み出すコミュニティデザインが上手になされている点。
- 「あらば食堂」の運営では地元の女性のみなさんが中心となり、世代間の交流と伝統文化の継承が行われている点。
- 大学生などを受け入れ、UIターンの若い世代が関係人口の効果的な創出に力を発揮している点。

審査委員のコメント

誰ひとり取り残さない、伝統を大切にした地域づくり

「50年後も子供たちが住みたいと思えるシマ（集落）であり続けて欲しい」をテーマに活動する「一般社団法人E’more秋名」。地域おこし協力隊としてこの土地に移り住んだ同法人代表理事の村上裕希さんと地元出身で2018年にUターンした理事の森吉喜美恵さんが、秋名地域を含む荒波地区をはじめとしたエリアのみなさんとともに、誰ひとり取り残さない、伝統を大切にした楽しさと優しさにあふれる地域づくりを進めています。目指す姿は「賑やかな過疎」。活動の中心的な施設となる「荒波のやどり」には、さまざまな人が集い、明るい笑い声が響きわたっていました。



取組の概要

「50年後も子どもたちが住みたいと思えるシマ（集落）であり続けてほしい」を胸に、荒波地区に人の流れを生み出し、先人が守ってきた集落の自然・文化、豊かな暮らしぶりを将来に渡って存続させ続けることを目指して活動。「暮らしぶりを伝え、繋げる」取り組みとして、飲食・宿泊事業、体験プログラムや関係人口創出事業（インターンシップ/企業向け研修）などにより、ソトとナカを巻き込んだ持続可能な地域づくりへの貢献を目指す。



地域在住の主婦5名が日替わりで担当し、それぞれのレシピで調理



スタッフ以外も加わり島料理の伝承と継承活動を担う「荒波まーじんま」



「荒波まーじんま」が講師となり、料理教室を開催し、地域外にも伝承



都市部企業向け研修として地域課題を絡めた越境学習プログラムを提供

取組のKEY PLAYER



村上 裕希さん
［一般社団法人 E’more秋名 代表理事］



森吉 喜美恵さん
［一般社団法人 E’more秋名 理事］

ソトとナカの協働を生み出す仕掛け人となり、賑やかな過疎を創る。

かつて奄美有数の賑やかな地域であった秋名が5年間で20%もの人口が減少していた2016年、龍郷町は地域おこし協力隊を導入。秋名らしさを残し、地域を応援してくれる人たちを呼び込むために熟議を重ね、2018年に住民有志で立ち上げました。

看板事業「あらば食堂」立ち上げと同時にコロナ禍を迎え、来島者が見込まれない中「暮らしぶりを伝えるとは何か」を問い続け、島の人にも来島者にも奄美らしさと懐かしさ、そして親しみのある事業を作り上げることができました。

今後も、協働の仕掛け人として、ソトもナカも巻き込みながら、50年後も子どもたちが住みたいと思えるような賑やかな過疎づくりに貢献していきたいと思います。

審査による現地調査でのヒアリング対象者

村上 裕希さん［一般社団法人 E’more秋名 代表理事］／**森吉 喜美恵**さん［一般社団法人 E’more秋名 理事］

鹿児島県龍郷町（たつごうちょう）

団体名……一般社団法人 E’more秋名
所在地……〒894−0333 鹿児島県大島郡龍郷町秋名1767−1
連絡先……TEL：0997−58−8842
E-mail：info@e-akina.com
URL：https://e-akina.com/



自治体・団体の詳細はこちらからご覧いただけます。